

令和5年度白山市子ども会議 質問・答弁要旨

議長：笠間中学校 中川 蒼空 （前半）

鳥越中学校 亀田 倫太郎（後半）

発言順	1
質問者	北星中学校 稲田美紗希
質問事項	地産地消の推進について
質問内容	地産地消の取り組みとして、地元の農林水産物をブランドの認証や、地元産を紹介するPR活動、食材の調理方法の提案など、取り組んでいるが、地産地消を広めていくために、これからさらにどのような取り組みが必要か。
答弁者	北辰中学校 原 侑也
答弁要旨	白山市の地産地消を広めてくために、これからは消費者側からの発信にも力を入れていきたいと考えている。農業体験や試食の機会をつくり、SNSを活用し、生産者と消費者の距離をより近づけることができるような取り組みを進めていきたい。

発言順	2
質問者	白嶺中学校 宮崎風花
質問事項	ジオパークについて
質問内容	ユネスコ世界ジオパークに認定されたことを機に、これまで以上にジオパークを意識して体感し、市特有の自然や文化、歴史などについて、魅力を見つけ、その良さを発信できることが必要になる。 白山手取川ジオパークについて、現在行っている学習活動と今後必要な取り組みについて問う。
答弁者	鳥越中学校 本島千翔、亀田倫太郎
答弁要旨	ジオパークについて学ぶ機会として、小中学生向けにジオ遠足、大学生向けにもフィールドワークの機会がある。市民向けにも、水の旅案内人講座やまちかど市民講座などを開催している。 市内には豊かな自然や多様な文化・歴史が残っている。川魚つかみ、稚魚放流、そば打ちなど、実際に体験することが大切で、地域の良さを知るだけでなく、守る気持ちも生まれる。そのような取り組みを増やし、さらに地域の魅力を見つけられるようにしていきたい。

発言順	3
質問者	鶴来中学校 橘 琉斗
質問事項	地域の魅力の発信について
質問内容	白山市は、白山の山頂から日本海に至るまでの広い市域を持ち、豊かな自然や地域によって特色のある食べ物、地域の伝統的な祭りや個性豊かなイベントがある。多くの人に知ってもらい、訪ねてもらうためには、このような資源を維持し、魅力を伝える取り組みが必要だと考える。地域の魅力に発信について、現在の取り組みと今後の取り組みについての考えを問う。
答弁者	松任中学校 二階堂颯介、堂口莉来
答弁要旨	地域の魅力の発信は、ユーチューブやフェイスブックで行っているほか、テレビ番組等でも様々な形で取り上げられている。 実際に白山市を訪ねてきた人が、地域の良さを口コミで広げるためにも、白山市に住む人も地域を自慢できるようにしていく必要がある。 豊かな自然を生かすために、例えば、1つの場所を、時間をかけてゆっくりとまわるような観光の形を目指していきたい。

発言順	4
質問者	笠間中学校 本田莉瑚
質問事項	子どもたちが安心して成長できる学校づくりについて
質問内容	いじめや不登校の問題は複雑になってきている。ささいなことでも発見・対応できるように、学校や家族も含めた取り組みを通して、安心して学校生活を送ることができるようにする必要がある。子どもたちが安心して成長できる学校づくりに関して、現在の取り組みとこれからの取り組みについて問う。
答弁者	光野中学校 大柳瑠奈、新谷大和
答弁要旨	子どもたちが安心して成長できる学校づくりには、すべての児童・生徒とおとなが多様性を互いに認め合い、尊重し合う土台が必要である。困っている人を積極的に手伝うこと、普段からみんなとコミュニケーションを取り、悩みを相談できる雰囲気を作ることが大切だと考える。一人一人が学校での出来事に関心をもって考え、改善のための行動ができるようにしていくことが、白山市の将来につながると考えている。

発言順	5
質問者	白嶺中学校 葛西弘樹
質問事項	地域に開かれた学校づくりについて
質問内容	白山市では、地域の人たちも関わって学校で活動を行うことが進められている。地域の人たち、学校、私たち、それぞれにとって良い環境にしていくためには、地域のことも学校のことも一緒に考えて行動に示していくことが大切である。地域に開かれた学校づくりに関して、現在の取り組みとこれからの取り組みについて問う。
答弁者	美川中学校 北川 皐、水出あいり
答弁要旨	現在、学校では地域の人に部活動のコーチや授業のゲストティーチャーとして参加していただいたり、コミュニティスクールとして動き出したりしている。地域の人たちに学校に関わってもらうだけでなく、私たち生徒も含めて学校として地域に関わっていくことも大切だと考えている。 私達の住む美川地域では、住民でつくる「美川まちづくり協議会」が増加する空き家について、美川小学校の児童も参加し、意見交換を行っている。このような例のように、子どもも大人も誰もが関わり合って、地域のことを考え、行動していくことがさらに必要だと考える。

発言順	6
質問者	美川中学校 水出あいり
質問事項	脱炭素社会の構築について
質問内容	白山市では、地球温暖化対策条例の制定、ゼロカーボンシティの宣言など、いち早く脱炭素に向けて動き出している。一方で、私たち一人一人ができることや地域が一緒になって取り組んでいかなければならないこともまだまだあると思う。現在の取り組みとこれからの取り組みについて問う。
答弁者	北星中学校 稲田美紗希、久保奈緒子
答弁要旨	環境にやさしいまちを白山市全体でつくるためには、市役所が率先して推進する必要がある、市が所有する施設の環境負荷の低減を目指す「はくさん ECO マネジメントプラン」により、電気使用量の削減、公用車の省エネ化の推進、紙類の使用料の削減などを行っている。 家庭や学校でもできることが多くある。CO₂を排出しない車への買い替えや車で移動しなくても買い物ができる地域づくりにも取り組む必要がある。一人ひとりが意識をもって取り組むことが大切だと考えている。

発言順	7
質問者	鳥越中学校 本島千翔
質問事項	公共交通の充実による生活の足の確保について
質問内容	今後さらに高齢化が進んでいく中で公共交通のニーズは高まっていくと考える。買い物や通院といった毎日の生活に欠かせない部分から、効率的な運行による持続可能な公共交通の実現が必要である。現在の公共交通の利用状況と将来に向けた取り組みを問う。
答弁者	白嶺中学校 葛西弘樹、宮崎風花
答弁要旨	コミュニティバス「めぐーる」は生活に密着した公共交通として、買い物や通院での利用を想定して運行している。白山ろく地域ではオンデマンド方式による運行であるが、乗車場所の利用が極端に少ないところがある。 今後、将来人口が減少していく中でバスの運転手の確保が難しくなると考えられるため、ワゴン車や軽自動車の車両を用いることも検討していきたい。また、自動運転のテスト走行をモデル地区で行い、安全面や費用面の検証をしながら、将来に備えることも検討していきたい。

発言順	8
質問者	松任中学校 二階堂颯介
質問事項	移住・定住の促進について
質問内容	白山市の人口は、今後少しずつ減少していく傾向にある。誰もが住みたい、住みやすいと思えるまちにしていくためには、若い世代から白山市に住んでもらえるような取り組みが必要である。現在行っている移住・定住の促進の取り組みについて問う。また、これからの取り組みについてどう考えているのか問う。
答弁者	鶴来中学校 高木恵太、橘琉斗
答弁要旨	市内で新築住宅を建てたときに利用できる定住促進支援制度や、新婚夫婦賃貸住宅家賃補助制度を設けており、今年の4月からは若者や子育て世帯に向けてさらに制度を充実させている。 白山市は自然が豊かで、子育ても買い物なども便利だと感じ取ってもらうような発信の機会を増やして、白山市を印象づける取り組みに力を入れていきたい。 鶴来地区では、まちなみに合った新しいお店が出店し、地域が生き生きとしてきている。今後は地域のお店や商工会とも一緒にまちづくりを考えることも必要である。

発言順	9
質問者	光野中学校 大柳瑠奈
質問事項	健康づくりの推進について
質問内容	いつまでも元気に暮らせる社会を実現するためには、日頃からの健康に関心を持つことが必要であり、年代に応じた健康を保つ取り組みが大切になっている。健康づくりの推進について、現在の取り組みとこれからの取り組みについて問う。
答弁者	笠間中学校 中川蒼空、本田莉瑚
答弁要旨	健康寿命を伸ばしていくために、子どもころから正しい食生活に関する情報提供や、高齢者の運動不足を解消し体を動かすことの大切さを知ってもらうための取り組みを行っている。これからは、特にストレスを持ちやすい世代を中心に心の健康維持の取り組みを進めたい。子育て世代の健康維持のため、親子が一緒に身近な場所で自然体験できる取り組みを検討したい。自然に触れることや散歩をする機会を増やし、身体のリフレッシュや心の健康づくりの推進につなげ、いつまでも健康に暮らせるようにしていきたい。